２００９（平成２１）年３月　第４号

Ｙｏｋｏｈａｍａ
ふくしネットワーク
Ｙネット通信

〔発　行〕
横浜ふくしネットワーク
（代表：直井　明）
〔編集責任者〕福山　修三
野地　貞光
横浜市泉区上飯田町 1987
☎ 045（802）0441

【Ｙネット特別寄稿】　飯 山　文 子 氏

（社会福祉法人 白根学園「光の丘」「風の丘」「麦の丘」施設長）



旧白根学園成人寮、今は障害者支援施設「光の丘」、障害福祉サービス事業所「風の丘」、同じく「麦の丘」の施設長の飯山文子と申します。

Ｙネットと白根との関わりは、1999 年のＹネット発足時に、白根学園の近藤前園長が、当時の恵和の前田理事長から、Ｙネットへの参加の声をかけて頂き、Ｙネットの趣旨に賛同し加盟して以来のお付き合いとなります。当時私はまだ、一介の現場職員で、「協力員（現在の推進員）」という立場で、恐る恐る協力員会に出席していましたが、他法人の同じような立場の職員の方や、時には OP の方たちと、知的障害者支援の夢や理念を熱く語れたのは、とても楽しく、心が元気になれる体験でした。当時の協力員会の活動の中から、施設間職員交流研修が始まりました。この交流研修を進めるにあたり、今考えるとずいぶん無謀なことを言っていたと思いますし、当時の施設長さんたちが、その若気の至りをよく許して下さっていたと、本当に感謝しています。お陰様で、施設間交流研修は年々内容を進化させながら、すっかり定着し、職員の素晴らしい「気付きの場」となっているように思います。

また、立場が変わり会員会として関わるようになってから、Ｙネットセミナーを職員や一般市民だけでなく、施設利用の当事者である利用者さんにも参加できるような形に変えてみました。Ｙネットが始まった頃は、職員たちが人権について理解していくことに重きをおいていましたが、この３回ほどは、エンパワメントの視点からのセミナーを開催しています。Ｙネットの活動で、職員たちが何をしようとしているのか、OP さんたちの訪問の目的を利用者さんたちにも理解していただけるように説明し、自分のことについては、まず自分で声を上げられるようになって頂きたい、そのためにはどうすればよいのか、一方、職員は上げられた声にどう応えていくのか、双方ともがそれぞれの立場で考えられるような、仕組みにしてみました。

次なる取り組みとしては、Ｙネットの事例検討会、推進部会や施設間交流研修等を通して考え、議論していることを、障害者支援関係施設の職員全体でシェアし、障害者支援の質の全体的な底上げをはかるような仕組みづくりが必要なのではないでしょうか。真の意味での利用者の権利を守ることは、支援の質の向上につながり、支援の質の向上を目指すことは、権利擁護につながると思っているので、もちろん、各法人、各事業所単位ではすでに様々な取り組みはなされているところではありましょうが、「ネット」活動だからこそできる『**なにか**』を探していきたいと思います。

平成２０年度　Ｙネット職員研修会が開催されました！



２００９年２月９日、神奈川県社会福祉会館２階第一会議室において、平成２０年度Ｙネット職員研修会（事例検討会）が開催されました。事例の検討・意見交換を通じて、職員の資質向上を図ることを目的とし、昨年度に引き続いての開催となりました。

事例検討会のスーパーバイザーには創造学園大学講師の市川和彦先生（写真右）をお迎えしました。先生からは、研修会全体を通し、常に的確かつ丁寧なアドバイスをいただきました。



事例検討会は、市川先生の「事例検討会の目的と方法」についての講義から始まりました。その後、恵和館さんからの資料に基づいた事例発表が質疑応答を交えながら行われ、発表終了後、参加者１５名が３つのグループに分かれて討議を行いました。

討議後、各グループより発表された意見からは、参加者の方々が熱心に、様々な意見・考えを出し合い、討議した様子が窺え、全員が真剣に耳を傾けていました。最後に、総括として市川先生から各グループの発表・意見を踏まえて今回の検討事例における着目すべきポイントやアプローチの方法など多くのアドバイスを頂きました。



終了後、参加者から多く聞かれたのは、「普段はそれぞれの施設で、様々な障害程度の利用者の方を支援している職員が、一緒になって『そのような考え方があったのか』『このような支援はどうだろう』と意見を出し合うことで、新たな『気づき』や『振り返り』ができた」ということでした。

事例検討会は、「問題解決の具体的な方法を検討する場」「手段や方法など技術的な研鑽を行う場」であるだけではなく、「自分の支援を見つめなおす自己覚知の場」でもあるという市川先生が冒頭の講義でお話しされたことが、実践されている研修会であったということを強く感じました。

また、多くの方々から、是非年度内に複数回実施していただけたら・・・というご意見も頂きました。これは、事例検討会が職員の資質向上、自らのスキルアップに大きく資するものであるということを、参加者の方が強く感じたことの表れであると思います。

Ｙネットでは、来年度も継続して職員研修を実施していきたいと考えています。実施日などは未定ですが、ぜひ来年度も皆さんの参加をお待ちしております。



平成２０年度Yネットセミナーが開催されました！

２００９年２月１６日、神奈川県社会福祉会館２階ホールにて、第３回Ｙネットセミナーが開催されました。ご来賓として横浜市の大貫障害支援課長にお越しいただき、ご挨拶・ご観覧いただきました。今回のテーマは『NO！と言える、わたし』。「自らの意思をきちんと伝えること」をテーマに掲げ、昨年度好評だった「劇仕立てで分かりやすく」「小グループで意見交換を行う」といった要素を引き続き取り入れながら、より積極的に利用者の方が、人権について考え、楽しんで参加していただけるようなスタイルでの開催を目指しました。





第一部は、東洋英和女学院大学教授の石渡和実先生に人権に関するお話をしていただきました。石渡先生の「嫌なことがあった時、困ったことがあった時には、『嫌です』『助けてください』と言ってくださいね」というお話に、参加された利用者の方は、真剣に耳を傾けていらっしゃいました。

第二部では、日常生活の中で、利用者の方が「嫌だな」「困ったな」と思われるシチュエーションに遭遇したら・・・という設定の「劇」を見ていただきました。劇では、利用者（役）の心の声が分かりやすいようにと、大きく心の声（「い・や・だ」）をプラカードにして表出したり、伝えたいテーマ（NO!と言える、わたし）をリズムに乗せて皆で言ったりと、昨年と比べ、利用者の方がより「わかりやすく」、「主体的」に参加できるよう工夫を凝らしました。その甲斐あってか、昨年以上に利用者の皆さんは盛り上がっていました。

劇をみた後は、劇中でおこった出来事についてご自身がどう思うか、少人数のグループに分かれて話し合いを行いました。OP の方や推進員が各々のグループにコーディネーターとして入り、劇中のような「困った」「嫌だ」と思ったときにはそれを自ら口に出して訴えること、誰かに助けを求めても良いということを、コーディネーターからお伝えすると、参加者の方々からは「分かりました！」という声とともに、多くの意見をお聞きすることが出来ました。



今回のセミナーは、前回以上にたくさんの施設から１００名を越える利用者・職員の皆さんに参加していただきました。どの方からも、「楽しかった」といったご意見をいただけたのが非常に印象的でした。今回も多くの方々のご協力のおかげで大成功をおさめることができました。来年度も利用者の皆さんに楽しんで、そして勉強になった、といっていただけるようなセミナーの開催をめざして、推進員一同がんばっていきたいと思います。



Ｙネット推進員の声

第１回：久保田　理恵さん（障害者支援施設「偕恵」）



Ｙネットの「推進員部会」は「加盟施設の職員（代表）」の会とも言うことができ、会員部会（加盟施設長の会）と並び、Ｙネットの根幹を成す部会です。隔月に１回ほど会議を行なっています。他施設を見学したり、人権について勉強したり日ごろの悩みを相談しあったり・・・と、施設の垣根を越え、職員同士がお互いの交流を深め、人権意識や職員の資質の向上をはかる場として活発な活動を展開しています。

本コーナーでは、そんな推進員部会のメンバーの声、想いをお届けしたいと思います。第１回目は平成２０年度の推進員部会の会長でもあり、Ｙネット（推進員）歴も豊富な、障害者支援施設「偕恵」の久保田理恵さんにお願いしました。

Ｙネット推進委員を担当し、今年で４年目になります。最初は日々の日課に加えてＹネットの活動をしていくことは忙しく大変でしたが、今ではそれ以上にＯＰさんや加盟施設の代表の方、同じ現場で働く職員の方と交流出来る事が嬉しく、Ｙネット活動はもう一つの職場のような存在になっています。

先日、Ｙネットに加盟していない施設へ２週間研修に行ってきました。加盟施設間においても毎年交換研修を行っていますので、今回も施設のいいところを参考にしようと期待に胸を膨らませて研修に挑んだところ、日中活動の取り組みは充実しており勉強になりましたが、権利擁護の視点からみて唖然とするような場面が多く、マイナスのイメージが強く残ってしまった研修でした。他施設との交流や第３者の声があれば、もっといい施設になるであろうと思うと残念であり、この時ほど、Ｙネット活動の取り組みのすばらしさを痛感した日はありませんでした。

Ｙネット活動は、利用者の権利擁護活動です。支援員は、利用者さんに対し、障害の特性にばかり目を向けるのではなく、知的に障害のある一人の男性、女性として接し、年齢にあった対応や日中活動を提供、支援していく必要があります。今後の課題は沢山ありますが、私たちは、自信を持って「利用者の権利擁護の取り組みをしています！！」と胸を張っていいと思います。

Ｙネットが発展していくために、地域性や施設の取り組みを大事にしながらも他施設の参考になる活動を積極的に取り入れ、加盟施設同士開かれた（情報公開、情報の共有、職員の交流、何でも言い合える関係）関係になりたいと思っています。そうすれば利用者さんはもちろんのこと、働く職員にとっても、自分の施設で働く事の自信と誇りにつながると思います。

まだまだ至らない点があるかと思いますが、皆様に支えて頂きながら、Ｙネット推進員の代表として活動をしていきたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

＜編集後記＞

Ｙネット通信第４号、いかがでしたか？新年度を目前に控え、まるで風が吹き荒れているかのごとく、忙しい日々を送っておられる方も多いかと思います。これがホントの春一番！？

暦の上では「春」ですが、まだまだ寒い日もあります。みなさんお体に気をつけてお過ごしください。

（広報活動実行委員一同）